Speaking 能力を高める「英語Ⅰ」の授業

英語科　東　　正　一

高校入門期の「英語Ⅰ」の科目では，中学校から高校への学習をスムーズに移行させるために，音読を中心とした音声指導を重視し，教師も生徒も英語で教科書の内容に関する質疑応答をし，生徒の Speaking 能力を高める活動を授業の中心として指導するべきではないだろうか。そのための工夫として，生徒全員が授業に参加できる形態としてのペアワークを発展させ，授業中にいろいろな生徒とペアになり，マンネリを防ぎながら，学習意欲を高めるためのローテーティング・ペアワークを取り入れた授業を行った。本稿では，その実践報告をするとともに，今後の課題を考えたい。

キーワード：外国語教育，教育実践，ペアワーク

1．はじめに

高校での英語教育は――特にいわゆる「受験校」では――最終的には，生徒が大学受験にうまく対応できるのを目的とした授業にならざるを得ないだろう。やや難解な論説文を読み，日本語で内容の説明をしたり，日本語で部分訳をしたり，和文英訳をするような技能を養うための演習が中心になるのは，現在の大学入試問題の形式が大きく変化しない以上は，やむを得ないと思う。

しかし，そのような演習だけに偏らず，受験だけでなく外国語学習の本来の目的であるコミュニケーションにも役立つ総合的な英語の力をつけることができるような授業を行うことが理想であろう。

平成10年度（1998年度）に担当した総合英語の科目である英語Ⅰの授業では，上記のようなことに留意しながら，普通の日本人英語教師が ALT とのティームティーチングではない授業形態で何が行えるのかを模索しながら授業を行ってきた。本稿では，その実践内容を報告する。

2．授業改善の視点―自分の学習体験から

今から20数年前，私が高校１年生のときは，いわゆる「読んで訳す」授業を受けていたように思う。ところが，高校２年のときに，新任の先生の授業があり，その先生は「英語で英語の授業」をしてくれた。つまり，内容を全部英語で説明してくれたのだ。そのような授業は，それまでは受けたことがなく，もしかするとその１時間だけだったのかもしれないが，すごく印象的だったのを今でも覚えている。

その後，大学に入り教養部の英語の授業があったが，出席番号順に読んで訳すだけの授業だったので落胆した。これでは，本当の英語の力は，つかないのではないかと憤りを覚えた。

ちょうどそのころ，松本亨の『英語で考えるには』とか『英語の新しい学び方』という著書に出会い，やはり，英語は訳すのではなく，英語のままで理解するようにしなければならないと確信するようになった。そして，自分の学習の仕方としては，①英英辞典をなるべく使用すること②多読すること③リスニングに力を入れることなどを，原則として勉強しはじめた。また，自分が英語の教員になってからも，試行錯誤を繰り返し，どうしたらよりよい授業をすることができるかを考えてきた。

「読んで訳す」授業も，ときには必要な場合もあることは否定しない。自分の英語のレベルに比べて，あまりにも難しいものを読まなければならない場合

は，日本語で意味を確認するのはやむを得ないだろう。しかし，「英語の学習」＝「読んで訳すこと」になってしまうのは問題だ。この学習方法しか知らないと，自分の知らない単語があると全て辞書を引かないと読みすすめないとか，日本語訳を書かないと理解した気にならないとか，英語の内容そのものよりも，正しい日本語にするために時間がかかる，というような悪癖に陥りやすいのではないだろうか。

大学入試に使用されるような論説文に比較すれば，高校入門期の「英語Ｉ」は，教科書が簡単である。この時期には，なるべく，日本語を使わずに授業を進めることが十分可能であると思われる。

具体的には，①音声重視②教師による英語の使用③ペアワーク・グループワークによる生徒の授業参加④知的好奇心を満足させるような題材，という原則で授業を組み立てるのがよいのではないかと，現在は考えている。④に関しては，なかなか選定が難しいが，授業の形態としては，①～③の原則で行うようにしている。

３．なぜ Speaking 能力を高める必要があるか

次に，そもそも，なぜ speaking 能力を重視する必要があるのか，ということを考えたい。ひとつの理由は，複数の人間がいなければ成立しない活動は speaking だけだからである。reading，writing，listening は，やろうと思えばひとりでもできる。ところが，相手が何を言い出すのか分らないような生身の人間を相手にした speaking は，ひとりではできない。ひとりでできることは自宅で行い，相手の必要な活動は集団で学習する学校という場で行うのが，理に適っている。

２つめの理由は，speaking は楽しいからだ。中学までの英語の授業は楽しかったけど，高校１年前半に英語が嫌いになる場合が多い。これは，高校では学習量が多く内容も難しくなるので，勉強してもよく理解できなくなるという面もあるが，それだけではないように思う。中学では音声を使った生徒の言語活動が多いが，高校になると，内容の難化につれて，読解や文法の理解が中心になり，授業中は教師の説明を聞く時間が長くなり，生徒の言語活動が少なくなるからではないだろうか。

内容が難しくなるのを考慮しながら，どうしたら中学英語から高校英語への移行がスムーズに行えるかを考えると，やはり，高校入門期には，音読や QA 活動を多く行い speaking 能力を高めるような授業の工夫が必要であるように思う。この時期に英語学習は楽しいし役に立つという意識を植えつけておけば，後になって，学習内容が難化してきてもそれを乗り越える大きな力になるのではないだろうか。

４．予習用プリントと Prepared Questions

私の授業は予習を前提として行っており，予習で何をしてきてほしいかをはっきるさせるために，各レッスンごとに予習用プリントをあらかじめ作って配布している。

1998年度は，予習の仕方を次のようなプリント（資料１）で提示し，新しく使う教科書の最初のほうのレッスンの予習を，入学前の春休みの課題とした。

授業の予習用プリントには，教科書の内容に関する質問（Questions）と，日本語で説明したほうが手っ取り早い文法や語いなどの項目などを含む箇所（Vocabulary and Translation）が書いてあり，生徒は前者には英語で答え，後者には日本語訳をしてくることになっている。

（資料１）

Spring English Homework（52回生 春休み英語課題）　　（1998/3/10）

高校の英語の授業は，予習を前提として行われます。そこで，実際の予習の仕方に慣れてもらうために，新しく使う教科書 UNICORN ENGLISH COURSE Ⅰの最初の５つの課の予習を春休みの課題とします。このプリントとノートを４月の最初に集めて点検します。

① まず，辞書を使わないで，一つのレッスンの本文全体をざっと読んで下さい。どんなにたくさん知らない語句があっても，「筆者は何が言いたいのだろう」ということだけを念頭に置きながら，我慢して最後まで読み進んで下さい。

② 次に，もう一度はじめから，今度は，このプリントに書いてある質問 Questions に答えながら，じっくりと読んで下さい。質問のなかには，教科書の内容ではなく，あなたの知識や考えを問うものもあります。読む目的は，ただ内容を理解するだけではなく，自分の考えを形成するための材料を手に入れることですから，「筆者の考えは正しいのか」ということを，常に考えながら読んで下さい。辞書は必要最小限引いて下さい。

③ 最後に，辞書をじっくり引き，教科書の本文の意味の解らないところがなくなるように努力して下さい。そして，予習の段階で「どこがよくわからないか」を明らかにしてから，授業にのぞむように心がけて下さい。Vocabulary and Translation の語句や文の意味は，授業中に日本語で確認しますが，これ以外でも知らない単語があれば，調べてノートにまとめておいて下さい。

- 中学とは違い，高校以後の英語学習では辞書を引くことが必要です。はじめは予習にかなりの時間がかかると思いますが，慣れるまでがんばってください。
- 最近の外国語学習者むけの英和・和英・英英辞典には，例文や文法・語法の説明など重要な情報がたくさん載っています。語句の意味程度しか載っていない社会人向けの辞書や電子辞書は，入門期には使わない方が賢明でしょう。
- 授業中には，原則として全文訳は要求しません。授業時間の半分ぐらいは英語で質問をしたり説明をしたりします。その後，日本語を使わないと理解しにくい部分のみ，日本語で訳を確認したり，説明をしたりする予定です。
- ノートの作り方は各自で工夫してみて下さい。本文を全部ノートに書き写したり，全文訳を書くのは，効率的ではないので，やらないほうがよいと思います。本文をコピーをしてノートにはってもよいですが，お金もかかるし地球環境にもよくないですね。ノートの作り方は，入学後に先生や先輩や友人に相談してみてもよいでしょう。
- 単語帳を１冊別につくるならば，単語カードや小さなノートよりも普通の B5 サイズのノートを使った方がよいと思います。たくさんのプリント教材が配布されると思いますので，それらをうまく整理することも大切な学習の技術です。
- AFTER YOU READ と FOR PRACTICE の問題もノートにやっておいて下さい。

次の（資料２）が，教科書 UNICORN ENGLISH COURSE I の Lesson 2 Terakoyas Throughout the World で実際に使用した予習用プリントである。

上の（資料１）の中でも述べているように，質問（Prepared Questions）には，教科書の内容だけではなく，生徒の知識や考えを問う７や10のような質問も意図的に入れるようにしてある。また，教科書内だけにある情報では答えられない３のような質問も入れてある。そうすることで，自分と無関係なものを読むのではなく，教科書の内容を自分に関係あるより身近な問題として考えたりできると思うからである。

（資料２）

Lesson 2 TERAKOYAS THROUGHOUT THE WORLD

Questions

1. How did the man lose his land?
2. How did the baby die?
3. What percentage of all the people in the world cannot read at all?
4. Why are most *illiterate people* (= people who cannot read) in developing countries?
5. What are the volunteers doing in the campaign?
6. What did the Japanese volunteers do in the summer of 1994?
7. Why do YOU think many village people haven't studied at school before?
8. How important were terakoyas in Japan in the Edo era?
9. What is the "Terakoya Movement"?
10. Have you ever done any volunteer work? What do YOU think is volunteer spirit?

Vocabulary and Translation

15

It was not milk but an agricultural chemical. （It は何を指すか考えて）

They *named* the year 1990 the "International Literacy Year"

16

take part in ～ = （synonym は？）

They are building schoolhouses, collecting money, or teaching at the local schools.

They know that reading and writing make their life better. But they cannot build many schools by themselves. （They が誰かを明らかにしながら）

The schoolhouse was built *in three days.*

17

play an important part in ～

18

reading, writing, and arithmetic

Because of terakoyas, the rate of literacy in Japan was higher than in many other countries.

That helped the rapid development in the Meiji era.

so far

in Africa, Central and South America, as well as in Asia

= not(　　)in Asia(　　)(　　)in Africa, Central and South America

以前までは，新出語句なども全てプリントに載せて授業中に全部意味を確認していた。今年は，Translation は最小限にとどめ，プリントに載っていない部分で自分のわからない単語などは，各自で調べるように言ってある。あまりにも親切に，細かいところまで教えすぎないほうが，将来は自学自習のできる学習者を育てるためには，よいのではないかという配慮である。

生徒は読んだ内容に関して英語でまとめることで，教科書の内容の理解が深まるとともに，授業中に行われる英語での QA の準備ができるはずである。

5．授業の展開方法

授業は大きく前半と後半にわかれる。前半約30分はペアワーク形式での音読練習や英語での QA が中心になり，後半約20分は一斉形式での日本語での細部の確認と説明である。より具体的な授業展開例は，資料３に示してある。

5.1 Warm-up Reading Aloud Practice

授業では，まず，ウォームアップとして音読練習を行う。教師の後に続いて，発音記号を見ながら教科書の脚注の新出単語の発音練習をする。発音記号や簡単なフォニックスのルールは，４月の当初に説明しておいてある。

以前は，意味を確認してない単語を読む練習をしても，無駄ではないかと考えていたこともある。最近は，もし意味が十分わかっていない段階で音読練習をしても，よいのではないかと思っている。まず，音声があり，次のステップで意味がわかるというのが，人間の自然な言語習得のプロセスだからだ。人間の赤ちゃんは，まず，意味を教えてもらってから，言葉の発音を習うのではなく，その逆である。まず，はじめに音があるのである。

次に，教科書の本時に扱うところ全体の CD を聞く。この時には，ただ漫然と聞くのではなく，聞いたら直ちに小声で繰り返す（shadowing）をさせるようにしている。ここまでは，一斉形式である。

ここから，ペアワークになる。机を対面式にして座らせ，ペアで段落ごとに交互に教科書の音読練習をする。自分の相手が読んでいる間は聴き，相手の発音が間違っていれば指摘し，発音が分らなければお互いに教えあうように指示してある。

気分転換のために，全員を立たせて読ませ，読み終わったペアから座らせることもある。

また，いつも同じ相手と読むことにならないように，後述するように対面しているペアの片方をローテーションさせて，パートナーを変えるようにしている。

5.2 Pre-listening Questions and Listening for Particular Information

生徒の音読練習が終わったら，生徒を対面式に座らせたまま，いよいよ教科書の内容に関する英語の質問や説明にはいる。ここが，授業の中心である。

あらかじめ本時に取り扱うところをいくつかの小さな部分に分けておき，CD を聴かせる。

大切なのは，その部分の CD を聴かせる前に，原則として予習プリントに載せておいた英語の質問を全員に口頭で提示することである。聴く前に質問をすることで，目的を持った listening ができるからである。生徒は教科書を開いたまま，CD を聴く。

5.3 Q and A between Students

CD を止め，もう一度教師が Question を口頭で提示する。生徒はペアでじゃんけんをし，勝った方は教師の質問を繰り返し，負けた方はその質問に答える。耳で聞いたことを，口で繰り返すのは難しい場合もあるが，話せるようになるための大切な練習である。

じゃんけんをするときの生徒は，すごく楽しそうである。負けたら答えなければならないので，じゃ

んけんにもつい力が入り真剣である。あちこちで，「よっしゃー」という歓声が上がったりする。

英語でQAをさせる場合に大切なことは，教科書を閉じて行わせることである。話すときは思い切りが肝心で，文法の正確さ（accuracy）など細かいことにはこだわらずに，とにかく口を動かすことが大切であると，機会をとらえて教師は生徒に説かなければならない。質問に対する答えを発見して，教科書の一部を読むだけでは，話す力はつかない。

ホームの雰囲気にもよるが，概して生徒はにぎやかにアイコンタクトをとりながら英語でQAを楽しんでいるようだ。質問が，教科書の内容に関するものでなくお互いの考えや経験などを問うものであれば，両者が質問しあうように指示する。

また，生徒には，なるべくたくさん喋らせたいので，「YesやNoで答える質問には，さらに何か余分な情報を付け加えなければいけない」とか「相手の答えに対して，さらに質問してもいいよ」などと言っている。

5.4 Q and A between Teacher and Student

生徒どうしのQAが終わった頃を見計らい，教師が生徒ひとりを指名し質問に答えさせる。この時には，ふつうは，他の生徒は静かにその生徒の発言を聞いている。生徒がとんちんかんな答えをしたりすると，爆笑が起こったりすることもある。

教師は教卓のところにいないで，生徒の机の間を歩きまわっていて，How about you? と言いながら，生徒の机を軽くたたいたりして指名することにしている。時にはフェイントをかけて，自分の背後にいる生徒を指名したりして楽しんでいる。

生徒が，「分りません」と答えたときには，「日本語でもいいよ」と言って日本語で答えさせておいてから，こちらで英語に直して他の生徒に伝えたりする。

生徒が答えた後で，教師は，その答えをもとにして，教科書には書いてない情報を盛り込み内容を膨らませながら英語で説明するようにしている。そうすることで，教師は，なるべくたくさんの英語をlistening inputとして生徒に与えることができる。

重要な新出語ややや難解な語句に関しては，質問をする際に，板書し意味を英語で説明する。たとえば，Why are most illiterate people in developing countries? という質問のところで，Do you understand the word illiterate? If you are illiterate, you can't read. Illiterate people means people who cannot read. のように，簡単に説明するとよい。

レッスンの題材によっては，地図や絵など利用できるものをできるだけ利用し，視覚などにも訴えるようにすると授業の単調さが解消できると思う。このへんのネタを探すのが，教師の腕の見せ所かもしれない。

5.1から**5.4**の手順を繰り返し，その日に扱うところのQAを終了し，あとは，日本語で補足説明をしたり，日本語を使ったほうが手っ取り早いような文法項目を含む文章の意味を確認したりして，その日の授業は終わりである。

（資料３）授業展開例

Lesson 2 Terakoyas Throughout the World (UNICORN ENGLISH COURSE I)

Precedure	Teacher's talk and students' expected answer
0. Warm-up Questions	We are going to read a new story: Terakoyas Throughout the World. What is this story about? (About schools.) Where are the schools? (. . .) In developed counties or in developing countries? (In developing countries) Are there enough schools in developing countries? (No.) Then what is UNESCO trying to do? (Build school.) Yes, UNESCO is trying to build more schools in developing countries because there aren't enough schools there and children can't learn to read or write.
1. Warm-up Reading Aloud Practice	Before we listen to the CD. Let's practice reading the new words in the footnotes. Please repeat. Throughout (throughout), literacy (literacy), movement (movement), . . . Now let's listen to today's part of the CD. As you listen, repeat in a small voice just after the CD. Let's practice reading aloud. Now move your desks and face your partner. Take turns reading today's part twice with your partner paragraph by paragraph.
2. Pre-listening Questions and Listening for Particular Information	Are you finished? Now change your partners. Those who face the window, move one seat to your right. Let's talk about the story in English, OK? Are you ready? Question number one and number two. How did the man lose his land? How did the baby die? I will repeat. How did the man lose his land? How did the baby die? Now listen to the CD and find the answers to the questions.
	There is a sad story about a farmer in one Asian country. He signed a paper, though he could not read it. All his land was taken away from him. A tragic accident happened. A baby was given a white liquid by his mother. It was not milk but an agricultural chemical. The baby died. The mother could not read the words on the bottle.
3. QA between Students	I will repeat the questions. How did the man lose his land? How did the baby die? Now close your textbooks, do *janken* and ask and answer the questions.
4. QA between Teacher and Student	*After a while* Now, Student A. How did the man lose his land? (He signed a paper, but he couldn't read it.) Yes, someone asked the man to sign the paper. "Will you sign here?" Maybe the paper said, "I will give this land to you." But the man couldn't read it. So the land was taken away from him. He lost his land. Now, Student B. How did the baby die? (A baby was given a white liquid by his mother. It was not milk abut an agricultural chemical.) Yes. There was a white liquid in a bottle. It looked like milk because it was white. But in fact it was an agricultural chemical. Maybe it was written on the bottle that you mustn't drink it. But the woman couldn't read it and a tragic accident happened. Now let's move on to the next part. Let's move one more seat. (to be continued)

6．Rotating Pair Work

ペアワークをする際には，生徒どうしがなるべくいろいろな生徒とペアを組むように配慮し，ローテーティング・ペアワークを行っている。これは，福井県の武生東高校で行われていたものをヒントにさせていただいた。

この活動を行う一番大きな理由は，授業は，何かを共同で学ぶ場であると同時に，いろいろな人と知り合いになる場であるべきだと考えているからだ。ペアワークの相手を変えることで、少しでもその目的が達成できると思う。二番目の理由は，いわゆる「英語の上手な」生徒とペアワークをすることで，英語学習の動機づけになること。三番目は，座席を移動したりパートナーを変えることで，授業のマンネリを防ぐためである。

実際にどのように行っているか説明する。たとえば，下の（図１）のように，40人の生徒がA(6人)B(7人)C(7人)D(7人)E(7人)F(6人)の横６列になって座っている場合である。

（図１）

	B7	C7	D7	E7	
A6	B6	C6	D6	E6	F6
A5	B5	C5	D5	E5	F5
A4	B4	C4	D4	E4	F4
A3	B3	C3	D3	E3	F3
A2	B2	C2	D2	E2	F2
A1	B1	C1	D1	E1	F1

教卓

このままの座席で隣どうしがペアを組めば，A1B1，C1D1，E1F1というようなペアができる。これだけでは，いつも相手が決まっていて面白くないので，奇数列または，偶数列の生徒を前後に一つずつローテーションさせることで，相手を変えることができる。

まず，ローテーションの準備として，最後の行のB7C7とD7E7でペアを作り，それぞれAB列とEF列の後尾に移動させる。（図２）

（図２）

B7	C7	←	→	D7	E7
A6	B6	C6	D6	E6	F6
A5	B5	C5	D5	E5	F5
A4	B4	C4	D4	E4	F4
A3	B3	C3	D3	E3	F3
A2	B2	C2	D2	E2	F2
A1	B1	C1	D1	E1	F1

教卓

この状態で，BDF列は固定しておき，ACE列の生徒を一座席分前に（ただし，一番前の生徒は，最後尾に）移動させる。すると，次の（図３）のようにパートナーが変化する。このようにして，QAが二つぐらい終わったら，席替えをすることで，活動に変化をつけることができる。

（図３）

A1	C7			E1	E7
B7	B6	C1	D6	D7	F6
A6	B5	C6	D5	E6	F5
A5	B4	C5	D4	E5	F4
A4	B3	C4	D3	E4	F3
A3	B2	C3	D2	E3	F2
A2	B1	C2	D1	E2	F1

教卓

さらに変化をつけるためには，列をそっくり入れ替えてローテーションを行えばよい。A列とF列は固定しておき，BからEの列を入れ替える。B列をF列の左隣に移動させ，CDE列を一つずつ左に移動させることで， AC，DE，BFの組み合わせができる。（図４）

（図４）

	C7	D7	E7	B7	
A6	C6	D6	E6	B6	F6
A5	C5	D5	E5	B5	F5
A4	C4	D4	E4	B4	F4
A3	C3	D3	E3	B3	F3
A2	C2	D2	E2	B2	F2
A1	C1	D1	E1	B1	F1

教卓

次のパターンは，E列をA列の右隣に移動させ，CDE列を一つずつ右に移動させることで，AE, BC, DFの組み合わせができる。（図5）

（図5）

	E7	B7	C7	D7	
A6	E6	B6	C6	D6	F6
A5	E5	B5	C5	D5	F5
A4	E4	B4	C4	D4	F4
A3	E3	B3	C3	D3	F3
A2	E2	B2	C2	D2	F2
A1	E1	B1	C1	D1	F1

教卓

さらに，B列とD列，C列とE列を入れかえると（図6）のようにAD, EB, CFの組み合わせもできる。

（図6）

	D7	E7	B7	C7	
A6	D6	E6	B6	C6	F6
A5	D5	E5	B5	C5	F5
A4	D4	E4	B4	C4	F4
A3	D3	E3	B3	C3	F3
A2	D2	E2	B2	C2	F2
A1	D1	E1	B1	C1	F1

教卓

以上のようにすれば，横の1～6行までは，4種類のペアができる。7行目は，隣どうしでペアを作ると，2種類しかできないという問題はあるが，ホームの席替が定期的に行われるならば，その弊害も緩和されると思う。

A1A2,D1D2のように前後の生徒でペアを作ることももちろん可能だが，そのためには，奇数行の生徒は，教卓を背にしてペアワークを行わなければならなくなる。時々黒板を使って説明することもあるので，生徒は，振り返らなくても黒板が見えるような座席でペアワークをしたほうがよいだろう。

欠席者がいる場合や，生徒の数が奇数の場合は，一つだけ3人のグループを作ったり，教師が生徒と一緒にペアを作るなどの方法で臨機応変に対処している。

7．今後の課題

最後に，今後の課題について述べておきたい。まず，この授業形態は，教師だけが話すのではなく，ペアワークを取り入れることによってどの生徒も授業に参加し，口を動かすという効果はあるが，このパターンばかりでやっているとどうしてもマンネリ化してしまう。やはり，教科書の題材などによっては，授業の方法を変えたり，時には，グループでのプレゼンテーションをするような形式を取り入れるなどの授業形態のバリエーションが必要だと思う。また，英語Ⅰレベル以上の難しい内容になったときに対応できないのではないかという危惧もある。

また，予習用のプリントに，あらかじめ英語での質問が書いてあるので，予習がしやすいというメリットはあるが，相手のしてくる質問もわかってしまっているという大きなデメリットもある。そのために，自分の質問を英語で考え相手に尋ねるという本来のコミュニケーション活動とは，程遠い活動になっていることは否定できない。これは，あくまでも教師中心の授業形態なので，自分で課題や問題点を発見したり，自分の力で考えることができるような自立した学習者を育てるために，教師中心の活動を徐々に減らし，学習者中心の活動を増やしていく必要があるのではないかと思う。

以上のような課題を念頭に置きながら，これからもよりよい授業を模索してきたいと思う。